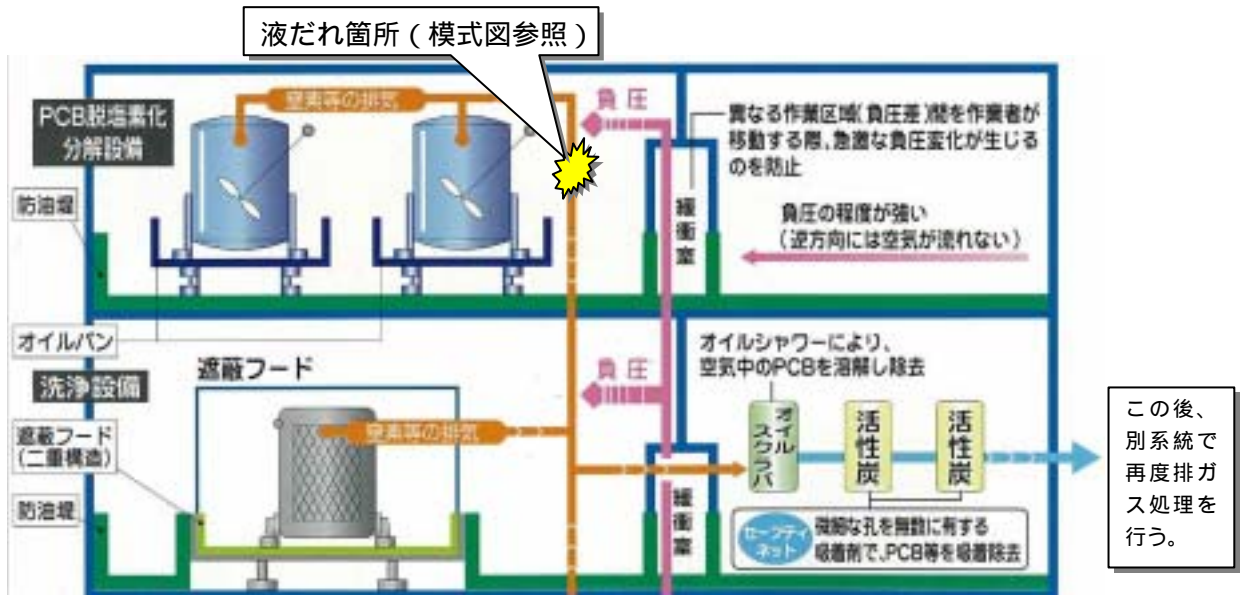


最近の事故等の概要

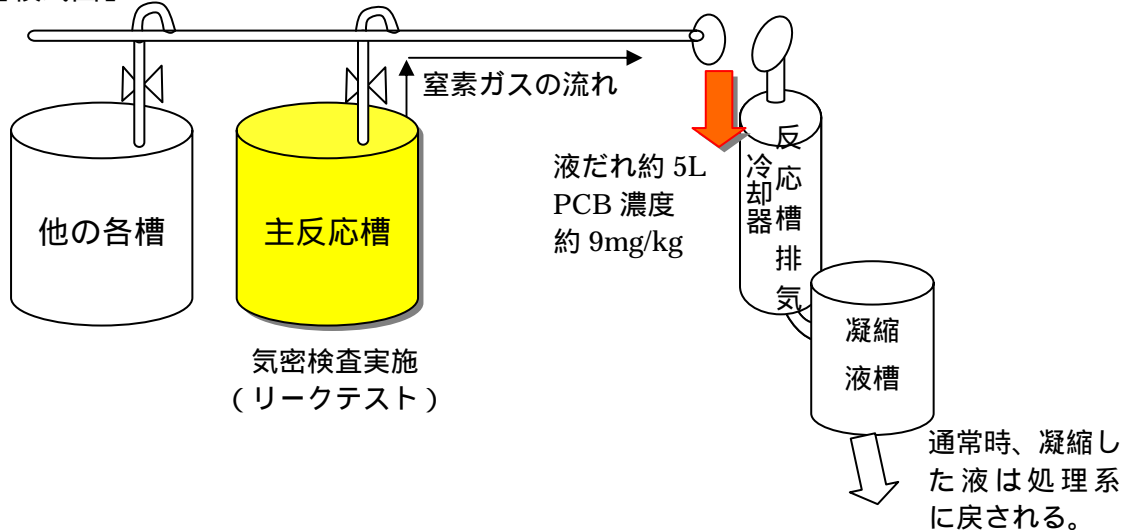
JESCO豊田事業所

1 低濃度 PCB を含む凝縮液の漏洩事故

平成 22 年 11 月 19 日(金)午前 7 時 45 分ころ、6 階の PCB 分解エリアにおいて、定期点検のため反応槽で窒素ガスによる気密試験を実施し、確認後にガス抜きを行ったところ、点検のため排気冷却器付近で取り外してあった排気配管フランジ箇所（配管接合部分）より床面に凝縮液約 5 L が流出し、ふき取りなどを行いました。



【模式図】



経緯

- ・平成 22 年 11 月 19 日(金)
- 07:15 定期点検のため、気密試験終了後に反応槽の窒素ガス抜きの準備を開始した。
- 07:30 反応槽のガス抜きを開始した。
- 07:45 ガス抜きを一時中断し、酸素濃度計による安全確認実施後に現場を確認したところ、取り外したフランジ箇所（配管接合部分）から凝縮液が流出し

ていた。

07:47 液だれしている配管下にバケツを設置し、ガス抜きを続行した。

08:10 ガス抜き作業を完了。

08:40 垂れた凝縮液をウエスで拭き上げると同時に、バケツに約 1 ~ 2 L 程度の凝縮液が溜まっているのを確認。ウエスで回収した凝縮液を含め流出量は約 5 L と推定した。

定期点検前に実施した洗浄液(洗浄に使用した鉱物油)の PCB 濃度分析結果は、各反応槽とも基準値(0.5mg/kg)未満であり、この時点では、この液が凝縮するなどして流出したものと考えました。

当該系統からの排気のオンラインモニタリング結果には異常はありませんでした。

漏洩した凝縮液は回収し、これによる PCB 等の施設外への漏洩や作業員への影響はありませんでした。

・平成 22 年 11 月 29 日(月)

豊田市の環境保全課が立ち会ったところ、液だれ直下の配管の保温材より滴下する液体を確認したので、採取分析しました。

・平成 22 年 11 月 30 日(火)

滴下した液体に濃度約 9 mg/kg の PCB が含有していることが判明し、低濃度で閉鎖系の室内でのことではありましたが、PCB が含まれている液の漏洩として、豊田市に報告しました。

状況から、11/19 に流出した液が保温材内部に付着し、その後時間がたってこれが滴下したものと考えています。

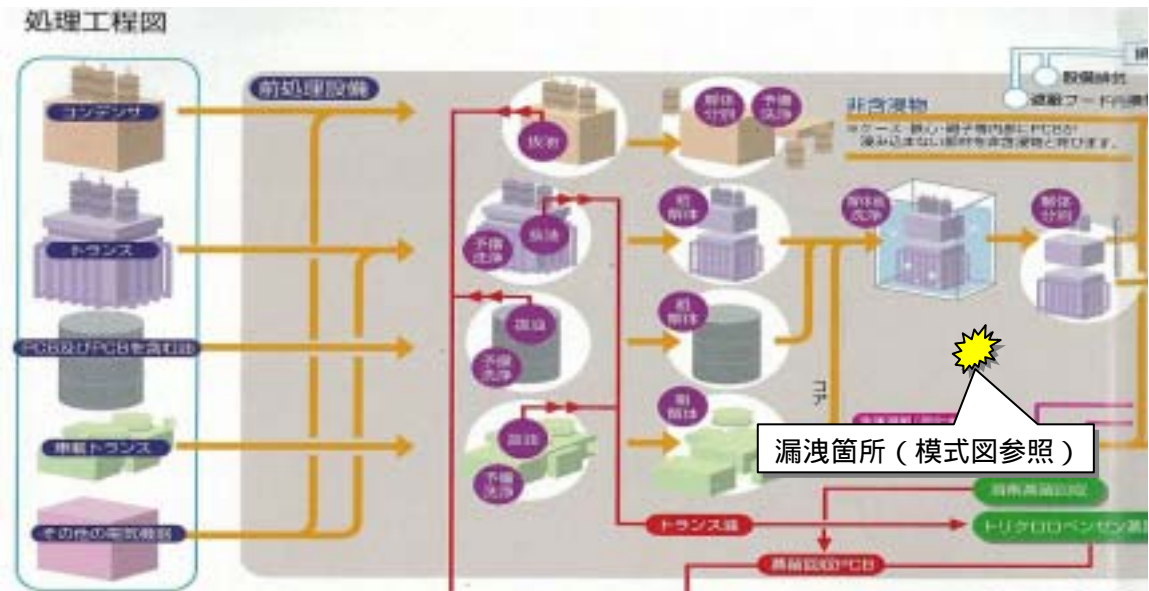
#### 今後における防止対策

今回、排気配管が開放されているのに気密試験を実施したため液だれが生じました。今後は、必ず排気配管を結合して気密試験を行うよう徹底します。

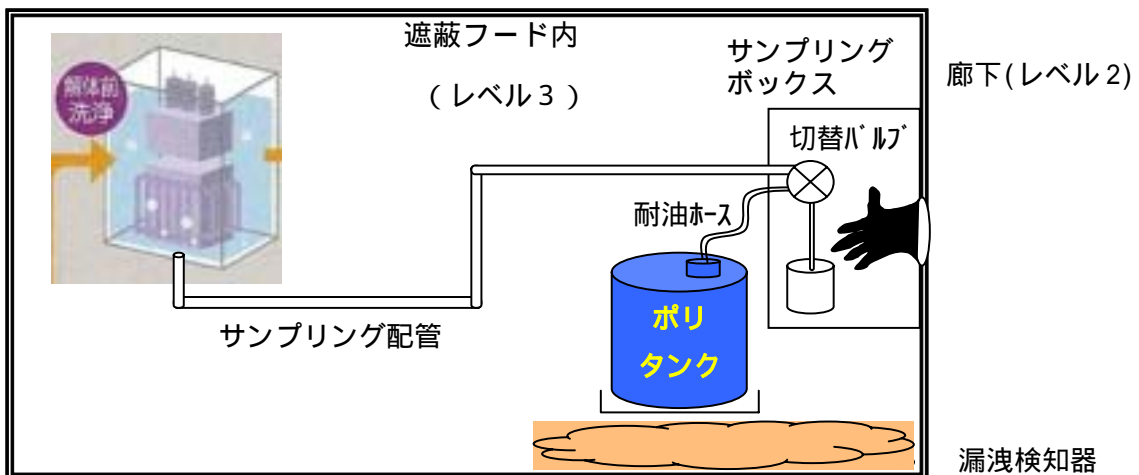
また、業者間と施設側の連絡を密にし、作業員の教育、管理監督を徹底して、再度発生しないように努めます。

## 2 遮蔽フード内における低濃度 PCB を含む洗浄液の漏洩事故

平成 22 年 12 月 8 日 16 時半ごろ、1 階小型トランス解体エリア（遮蔽フード内）において、解体前洗浄作業を行う洗浄槽の洗浄液を分析するサンプリング作業において、初期にサンプリングラインに残留している不要な液を回収するポリタンクより、洗浄液が遮蔽フード内の床に約 5 リットル漏れ、ウエス等で回収しました。



【模式図】



### 経緯

- 16:20 洗浄液のサンプリング実施
- 16:30 洗浄液のサンプリング終了(サンプリング液の濃度 0.697mg/kg)
- 16:32 中央制御室で漏洩検知器が発報
- 16:40 遮蔽フード内で現地確認、洗浄液サンプリング液のライン洗浄分の受器（ポリタンク）より洗浄液が約 5 L 程度が床にもれていたのを確認。
- 16:48 ウェス等で回収終了
- 18:30 ポリタンク内の濃度の分析結果 53mg/kg



このポリタンクより漏洩

当該系統からの排気のオンラインモニタリング結果には異常はありませんでした。

漏れた洗浄液は回収し、これによる PCB 等の施設外への漏洩や作業員への影響はありませんでした。

### 今後における防止対策

遮蔽フード内作業低減のためサンプリング液を通路から採油できるようにした際に、サンプリングラインに残留している不要な液をポリタンクに溜めて回収する作業工程に原因があるため、暫定的に透明なポリタンクに変更し、毎日回収しチェック表で確認することとしています。恒久的にはポリタンクに回収しない方法への変更の詳細設計を行っています。

## 3 非常排煙装置誤操作について

平成 22 年 11 月 11 日 11 時ごろ、定期点検中に 5 階通路でダクトを更新する工事をするため、天井裏を確認しようとして誤って非常用排煙口をあけ、約 20 分間、排煙装置が作動してしまいました。

PCB が無い通路部分の空気が排煙されたもので、施設外への PCB の流出はありませんでした。

### 今後における防止対策

これらの非常用排煙口は天井にあるため通常は開放しませんが、非常用排煙口をあければ排煙装置が作動するので、開放しないことを改めて徹底すると同時に、全 45 カ所の排煙口に「排煙口・開けるな」の表示をしました。



天井の非常用排煙口



「排煙口・開けるな」の表示を追加